



サフラン便り

第26号 19年4月15日発行

発行:佐賀県女性薬剤師会
佐賀市本庄町大字本庄 1269-1
TEL:0952-23-8931
FAX:0952-23-8941
<http://www8.ocn.ne.jp/saffron/>

平成18年度民間グループ調査研究支援事業

調査研究報告会

日時:平成19年3月18日(日) 13時30分~15時40分

会場:佐賀県立女性センター<アバンセ>4階会議室

テーマ:女性薬剤師のさらなるチャレンジに向けて~女性薬剤師の50年を検証する~

全体の6割を女性が占める薬剤師。佐賀県でも多くの女性薬剤師が薬局や病院などで、活躍しています。常に最新の医療情報をキャッチし、レベル向上の為に学習が欠かせない薬剤師の女性たちは、仕事と家庭生活をどのように両立させてきたのでしょうか。アンケート調査とインタビュー調査からすべての女性が働きやすい社会の為に今何が必要なのかを探りました。

(報告事項)

、一般の方に、薬剤師の理解を深めてもらう為に (田中 須磨代)

- ・ 薬剤師名称の由来 ・ 薬剤師とはどんな職業か? ・ 薬剤師の任務
- ・ 薬剤師の働く職場 ・ 薬剤師の必要性 ・ かかりつけ薬局・薬剤師をめざして

、アンケート調査要 (北島 悦子)

- ・ 年代 ・ 回答薬剤師の現状 ・ 薬科大学を選んで薬剤師になろうと思った理由
- ・ 薬剤師をどのような仕事と認識しているか ・ 働いている理由 ・ 年収について
- ・ 自立した女性として生きていこう ・ 薬剤師としての悩み ・ 未来の薬剤師たち
- ・ 私たちの使命



、聞き取り調査について (宮地 和子)

- ・ 考慮したこと (地域、仕事の内容、薬剤師の社会的役割の変化、世代)
- ・ ご協力していただいた先生方 (敬称略) 北 和子 ・ 島田 悟 ・ 宮地信子 ・ 山中貞子
吉富志那子 ・ 前谷ヨシ ・ 池田綾子 ・ 川原田里子 ・ 坂本壽子 ・ 井手邦子 ・ 田中須磨代

宣言

私たち佐賀県薬剤師会女性薬部会は、男女共同参画推進の為に今後も調査研究や関連事業に、積極的に参加していきます。

次世代の薬剤師の為に、彼らの夢が実現するよう、そして何よりも私たち自身が薬剤師という自らの仕事に誇りを持ち続け、地域の健康に奉仕していく為に、よりネットワークを広めていくことを宣言します。

お知らせ

「平成19年度第1回女性薬部会研修会」

日時:平成19年4月18日(水)20時~

場所:佐賀県薬剤師会2階研修ホール

演題:「アンチドーピング」について

佐賀県薬業六団体 小笠原光一先生

佐賀県体育協会 渡瀬浩介先生

佐賀県薬業六団体 児島陽子先生

今年夏に、佐賀県で開催される高校総体へ向けて、研修会を開催いたします。一般薬、処方薬に関わらず、服薬する際に気をつけなければいけない禁止薬物についての知識を学び、佐賀高校総体へ向けて、応援していこうではありませんか? 男性女性問わず是非、ご参加ください。

(キッズルームもあります)連絡先(0952-23-8931)



薬剤疫学のスズメ



皆さんはオッズ比やコホート研究という言葉が気になりませんか？
各種学会や文献でのEBM報告によくオッズ比が用いられています。

このようにEBMという言葉が一人歩きする昨今、EBMの根幹となる薬剤疫学の基礎について、4年制大学既卒が学ぶ機会は容易に得られないのが現状です。

薬剤疫学とは「人の集団における薬物の使用とその効果や影響を研究する学問」と定義されます。

「人の集団における薬物の使用」は医療現場での医薬品の使用を意味しますから、薬剤疫学は主として市販後医薬品の使用実態に適用されます。「効果や影響」は、有効性と安全性の他に経済性を含んでいます。また薬剤疫学は医学、薬学、看護学、疫学、統計学、情報学などが関係する学際的領域です。

薬の使用実態、使用者の集団は大きくは国、地域ですが、一つの病院、診療所、薬局にも存在します。未知重篤な副作用の発見、有害事象を起こした症例の集積、自発報告、医薬品との因果関係の追及、短期の治療効果や長期予後の評価、費用対効果の解析など、研究の課題もさまざまです。

目的は収集された情報につき薬剤疫学的研究方法を用いて新たに有用な情報を創出し医薬品の適正使用の普及、確立に役立てることです。

以上のように皆様の手元にあるデータから、医薬品の適正使用に関する様々な情報を自ら創りだし患者さんのために役立てるため薬剤疫学を学ぶことは大切なことです。(徳淵)

参考 Web

<http://www.jspe.jp/> 日本薬剤疫学会

<http://www.rad-ar.or.jp/index.shtml> くすりの適性使用協議会



<診療ガイドライン薬剤コース 後期スクリーニングアンケートより>

- ・ 佐賀大ドクターの臨床に即した生きた話を聴けて良かった。(開局薬剤師)
- ・ 薬物治療について詳しく説明してもらったので、今後すぐに役立つと思う。(20代末就業)
- ・ 関節リウマチの最新の薬物治療や今後の治療のあり方について知ることができた。(20代開局薬剤師)
- ・ 子宮内膜症は身近な疾患で、実際の画像もきれいで解かりやすかった。(20代病院、開局薬剤師)
- ・ どの講義も解り易く、おもしろかった。リウマチの薬について勉強になった。(介護施設関係)
- ・ 解剖学なことや、疾患・病態について詳しく勉強でき、実際の症例や臨床試験のエビデンスに基づく講演が聴けて良かった。(30代薬剤師)
- ・ 大腸癌についての伝えたい内容、ポイントが非常にわかりやすく伝わった。息子さんのエピソードもユーモアがあってよかった。(30代開局薬剤師)
- ・ 診療ガイドラインのスクリーニングは女性向けのイメージがあるが、こんな充実した講義はもっと多くの薬剤師に参加して欲しい。男性薬剤師にも参加してほしいです。(30代開局薬剤師)
- ・ 毎回ドクターの講義は興味深く、特に検査や手術の映像がみられて勉強になった。自己学習しにくく敬遠しがちな病態治療について解り易くて今後の服薬指導に役立てられると思う。子宮内膜症は手術の映像も見ることができてよかった。リウマチについては服薬指導とコンプライアンス確認の大切さを知った。(30代開局薬剤師)
- ・ 他県から参加しています。充実した内容でよかった。女性薬剤師会の心遣いが色々なところで感じられます。今後も女性薬剤師が参加しやすい研修を開催してください。(30代開局薬剤師)
- ・ 大腸癌の原因、分類、診断、治療が解かりやすい説明でよく理解できた。患者さんに接する際に多い病態なのでこれからの仕事に役立てたい。(40代開局薬剤師)

<ちょっと一言>

予想に反して、花粉症に悩まされた方も多かったと思います。その症状で自律神経のバランスも崩されつらい思いをされたのではないのでしょうか？同様に男性女性のそれぞれの特性を生かすことで世の中も「やじろべえ」のような仕組みになっているのかなと思いました。どちらが交感神経か副交感神経が分かりませんが、上手にバランスを取りましょう。(島田、宮地)